

6月は、環境月間

他人事ではない、「地球温暖化」

「地球温暖化」が叫ばれています。

地球温暖化とは、二酸化炭素（CO₂）など温室効果ガスが大気中に増えることにより、地球の平均気温が上昇することをいいます。

その原因となるCO₂などを排出しているのは、私たちなのです。

自動車やエアコンなど家庭用電化製品の普及は温室効果ガスの排出量を増大させています。

研究者の予想では、今後、地球の平均気温がさらに上昇するといわれています。

地球温暖化は、決して他人事ではありません。

6月は、環境月間。

今こそ、私たちは、地球温暖化について考えてみましょう。

地球温暖化と京都議定書

◇「京都議定書」とは

今年2月16日「京都議定書」が、発効しました。今から7年前の平成9（1997）年12月、地球温暖化問題に取り組むための国際会議が京都で開催されました。正式には「気候変動枠組み条約第3回締約会議（略称、COP3）」です。

この会議は、国際社会が「国」という枠組みを超えて、地球規模で「地球温暖化防止」に取り組もうとする会議でした。

この会議で、地球温暖化の原因

であるCO₂など温室効果ガスの排出抑制の数値目標を各国に設定し、法的拘束することにより温暖化を防止しようとする大枠が決められました。これが京都議定書（以下「議定書」）です。

しかし、先進国や発展途上国など各国の思惑もあり、なかなか発効されませんでした。16年11月ロシアが批准したことにより、議定書発効の条件が満たされました。現在、議定書は、日本をはじめ世界130を超える国と、欧州連合

（EU）が批准しています。しかし、最大のCO₂排出国といわれるアメリカは、13年に離脱しました。

議定書では、各国の温室効果ガスの削減を先進国に義務付けています。2年の時点と比べてEUの8%を最高に、日本の6%など先進国全体で5・2%の削減目標が設定されています。

議定書の発効により、世界各国が真剣に温室効果ガス削減に向けて、動き始めるといわれています。これを受けて、日本でも産業・運

輸・家庭・業務など各分野ごとの温室効果ガスの削減目標を定めた「京都議定書目標達成計画」を発表し、本格的な排出削減に取り組めます。

CO₂の排出には、家庭用電化製品の利用による電力消費や自動車の排気ガスなど私たちの暮らしが、大きくかかわっています。

決して大げさではなく、身近なところから地球温暖化防止に取り組むことが、求められています。